

introduction

膝関節外科医にとって、軟骨と靱帯は2大メインピックです。軟骨は半月板・関節軟骨損傷から、変形性関節症まで含む主要領域で、変性疾患も大きく関わります。靱帯は最終的には変形性関節症に関わりますが、スポーツ整形外科での主要領域になります。スポーツ整形外科は若手整形外科医にとっても魅力のある人気領域ですが、そのなかでも靱帯損傷は昔も今もメインピックの1つであり続けています。

特に前十字靱帯損傷の病態と治療については、日本の膝関節外科医は国際的にインパクトのある多くの重要な研究成果を発信し続けてきました。歴史的には pivot-shift 現象の解明、人工靱帯の開発、interference screw の開発、受傷メカニズムの解明、関節鏡視下再建術の確立から、靱帯付着部の詳細な解剖、解剖学的二重束再建の概念と手法、長方形骨付き膝蓋腱による解剖学的一束再建、遺残組織温存再建術、動的不安定性の定量解析など、世界の前十字靱帯再建術をリードしてきた知見は枚挙に暇がありません。

そして今、グラフト選択や固定法、一束再建の再評価、合併損傷半月板、前外側支持機構の役割など、アツい議論が行われるトピックが変わりつつあります。膝靱帯損傷に関わる医師は、この時代とともに移り変わる議論について知識をアップデートしていかなければなりません。また、内側側副靱帯や膝蓋大腿靱帯についても新たな知見が出てきています。

今一度、膝靱帯損傷の診断と治療についてトレンドを示し、日常診療と次の研究アイデアの糧となり、日本の膝スポーツ整形外科がこの分野のリーダーを引き継いでいくことに少しでも役立てられたら幸甚に思います。

東京女子医科大学整形外科
岡崎 賢